

# 一般質問

## ここが聞きたい！



### 佐藤 昇 議員 16

国宝への指定答申を受けた白滝遺跡群出土品における今後の施策の展開は ほか1件



### 阿部 君枝 議員 17

子宮頸がんワクチンの丁寧な情報提供を

令和5年第2回町議会（定例会）の一般質問には2人の議員が登壇し、町政に対するさまざまな課題について、現状や今後の方向性を町長などに問い質しました。

一般質問とは、議員が町長や教育長などに対し、町政に関するさまざまな課題について、考えを聞いたり提案をしたりするもので、質問と答弁がかみ合うように全文通告制を採っています。

なお、再質問からは一問一答方式で行い、回数に制限なく質問時間を一議員30分以内としています。

## 国宝への指定答申を受けた 白滝遺跡群出土品における 今後の施策の展開は

教育長 関係団体と意見交換を重ね、積極的に取り組みたい

### 問

白滝遺跡群出土品は、昨年11月の文化審議会からの国宝指定の答申を受け、地域における交流人口の拡大と地域活性化に向けて期待が高まっています。

今後さらに遠軽町の魅力を情報発信し、交流人口の拡大と地域活性化につなげていくための施策として3点について見解を伺います。



デジタルサイネージは、映像表示装置をデジタルサイネージと情報システムを連携させることで、郵便事業会社と連携

展示したり、デジタルサイネージなどを利用して映像で出土品をPRするなどの考えはありませんか。

②現在、児童生徒を対象とした石器づくり体験などが行われていますが、実際に作成された石器類を作者の許可を得たうえで白滝支所内や主要な施設等に展示し、さらに機運を盛り上げて行くことができませんか。

③国宝に指定された段階で、郵便事業会社と連携

した「出土品をモチーフとした特殊切手」の発行やJR北海道と連携した「遠軽ー白滝間の記念乗車券」の発行ができないか検討するとともに、関係方面への対応などを行う考えはありませんか。

### 答

①現在、大型の尖頭器2点をはじめ、約70点のレプリカを所有しており、町内において環境が整えば積極的に活用したいと考えています。

また映像については、道の駅森のオホーツクや動画配信サイトで紹介しています。今後も白滝ジオパークのホームページなどを活用して国宝の認知度の向上に努めていきます。

②石器づくりなどの成果は、地域の学習活動と国宝の情報発信を兼ねることができるところから、各学校の意見を聞きながら



佐藤 昇 議員

## 大人の健康遊具を設置しては

### 問

人と人との交流や高齢者と子どもたちの交流も目的に、屋外の公園や役場新庁舎の敷地内に大人の健康遊具を設置し、気軽に楽しみながら普段からの健康増進に役立つような取り組みはできませんか。

### 答

健康遊具などの設置については、現時点において設置する考えはありませんが、介護予防教室の継続や、健康づくりを主体的に取り組める環境づくり、社会資源の発掘及び確保に努めていきます。

③役場内の関係部署と連携し、観光振興や地域活性化に向けた取組みについて検討しています。本年開催予定の国際黒曜石会議遠軽大会など、

進めていきたいと考えています。こうした機会をきっかけに商品開発や観光客誘致につなげていけるよう国や道、関係団体の皆さまとも十分に意見交換を重ねながら積極的に取り組んで行きたいと考えています。

# 子宮頸がんワクチンの 丁寧な情報提供を

町長～講習会等

可能な限り対応していきたい

## 問

厚生労働省の審議会での議論を踏まえ、本年4月から子宮頸がんワクチン「シルガード9」が定期接種として公費で受けられます。子宮頸がんの95%以上は、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルス感染が原因といわれています。その他、肛門がん、膣がんなどのが

んや尖圭コンジローマ等多くの病気の発生に関わっています。

現在、国内で承認されているHPVワクチンには、2価、4価、9価の3種類があります。特に、9価ワクチンは、90%以上の予防効果を持つことが期待されています。

そこで、接種再開後の接種率や副反応などの不安の声はあったのでしょうか。また、9価ワクチンが定期接種化されましたが、従来のワクチンとの併用について課題等があります。

## 答

接種率は、令和3年度が6.1%、令和4年後が年度途中で令和5年1月末現在で9.8%、キャッチアップ接種者は6.6%となっています。副反応などについて



HPVワクチンの接種率が低い理由として「授業や部活動で忙しく、なかなか時間がとれない」という保護者の声も

## 問

有効性が93.9%と高く、HPVワ

は、強いストレスにより体調が悪くなった方はいました。そのほかの相談はありませんでした。厚生労働省は、9価ワクチンが定期接種化となった場合、同じ種類のHPVワクチンで接種することを原則とはしていませんが、交互接種における安全性と免疫原性が一定程度明らかになっていることから、医師とよく相談したうえで交互接種することをお勧めしています。町としては、引き続き医療機関と連携をとりながらワクチン接種を進めていきます。

クチン接種と子宮頸がん検診で最も成功している国の一つであるオーストラリアでは、2028年には世界に先駆けて新規の子宮頸がん患者はほぼいなくなるとのシミュレーションがなされました。日本においては、著しく接種率が低く、さらに子宮頸がんの死亡率は年々上がってきています。

## 答

子宮頸がんはワクチン接種で防げる病気で、ワクチンについて正しく知り、防ぐための検討と丁寧な情報提供が必要と考えます。そこで、個別通知と併せて、出前講座、講習会等を開催してはどうですか。



阿部 君枝 議員